

「iKoto HD」による創作とその課題
—小・中学校音楽科での実践に向けて—

石川裕司（東京学芸大学）

1. はじめに

箏はいわゆる教育用楽器として音楽科の授業で用いられる機会の多い和楽器である。箏を用いた学習は、中学校音楽科器楽教科書に掲載されている「さくらさくら」や「荒城の月」の前奏を創作する等、器楽活動とあわせて創作活動でも積極的に行われている。音楽づくりや創作の活動では、ICT を生かした実践が蓄積されつつあり、和楽器の学習でも、ICT をいかに取り入れて学びを深めてゆくべきかが議論される場所である。音楽文化という側面から捉えると和楽器の代用的活用には慎重でなければならないが、音楽を楽しむ一つの有効な手段として、柔軟かつ積極的に取り入れたいものである。

箏の特徴である音色を楽しむことができるアプリを検索すると、さまざまな箏（琴）のアプリがヒットする。例えば、Android アプリの「Koto13-stringed」などは6つの調子が選択でき、手軽に箏の音色を楽しむことができる。そうした箏（琴）のアプリを代表するものとして、iPad アプリ「iKoto HD」（株式会社 GClue）があげられる。

本研究では、この「iKoto HD」を使用した創作とその課題について検討してみたい。小・中学校の音楽科を射程とした研究ではあるが、教員養成課程音楽専攻生を対象とした実践を通して音楽文化の側面も踏まえ検討する。

2. 研究方法

教員養成課程音楽専攻生を対象として、実際の箏による創作と「iKoto HD」を使用した創作を行い、それぞれの創作において対象者が抱いた肯定的及び否定的意見をもとに、「iKoto HD」による創作とその課題について検討する。

3. 創作の概要

- 1) 箏による創作：箏の様々な奏法を学習した後、その奏法を生かして、教育芸術社「中学生の器楽（H.28年発行）」掲載「My Melody 箏を平調子に調弦して旋律をつくろう（p.31）」を行う。
- 2) 「iKoto HD」を使用した創作：
 - ①アプリに設定されている調子のうち、「平調子」「本雲井調子」「中空調子」「乃木調子」「楽調子」「花雲調子」「古今調子」それぞれの調子について、春・夏・秋・冬のどの季節の曲を創作することに適しているかを考える。
 - ② 創作に使用したい調子を1つ選択し、4小節、または8小節の創作を行う。
 - ③ を設定した理由は、小・中学校の音楽科で季節を主題とした箏による音楽づくりや創作活動がしばしば行われる為である。尚、結果は研究発表にて報告する。